

ファインダーを 覗く子供たち

→ 2016.11.20



ニュースでよく聞く“難民”という言葉。国連によると、**世界中の難民は過去最多の約 6,500 万人**となっています。私たちがイメージする“難民”と実際の“難民”はどう違うのでしょうか。そこで、私たちプロジェクトチームは「ファインダーを覗く子供たち」というテーマを掲げ、「UNHCR 難民映画祭 学校パートナーズ」に参加し、難民への関心の輪を広げるためのイベントを開催します。イベントでは、まず**ゴバディ監督の映画「国境に生きる－難民キャンプの小さな監督たち－」**を上映。次いで、JIM-NETの佐藤真紀氏と学生がトークセッションを行います。最後は、反戦をテーマとしたプロジェクションマッピングとダンスのパフォーマンスを行います。このダンス衣装は、**難民が実際に生活していたテント**を素材としています。

午前の部 10:00-12:00 **午後の部 15:00-17:20**

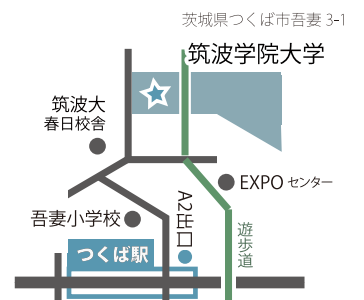
- ▶ 映画《国境に生きる》上映会
- ▶ 学生と佐藤真紀氏とのトークセッション

- ▶ 映画《国境に生きる》上映会 (午前と同じ内容です)
- ▶ 学生と佐藤真紀氏とのトークセッション
- ▶ 学生によるパフォーマンス (17:10-)

筑波学院大学 大教室

入場無料

申込不要



お問い合わせ 029-863-3456



撮影：景山咲子（シネマジャーナル）

バフマン・ゴバディ

イラン出身のクルド人。俳優・映画監督・脚本家。監督作品に《酔っぱらった馬の時間》《ベルシャ猫を誰も知らない》《サイの季節》など、国際的評価が高い。新作《国境に生きる－難民キャンプの小さな監督たち－》は話題性が高い。



提供：UNHCR 駐日事務所

映画《国境に生きる》

ゴバディ監督が難民キャンプで開いた子供向けの映画教室。「銃よりカメラを」をテーマに8人の「小さな監督たち」が映画を制作。「私たちの生活を知って欲しい」。子供達の切迫した声は8本のオムニバス映画となった。 (2015年、73分)



佐藤真紀 JIM-NET 事務局長

JIM-NETは、中東を拠点に、紛争被災者を対象とした医療支援など、多岐に亘る活動を行っている。現在、イラク・シリア難民・福島の子供たちの支援のためにチョコ募金を実施中。今回の映画祭では学生とのトークセッションに参加。



学生と難民キャンプのテント

中東の難民が実際に生活していたテントで衣装を作成し、プロジェクションマッピングとダンスのパフォーマンスを企画。テントを活用して、難民問題を伝えるために「私たちに何ができるのか」試行錯誤しながらチーム一丸となって制作。

主催：筑波学院大学

共催：日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)

協力：国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所

《主催》

筑波学院大学
TSUKUBA GAKUIN UNIVERSITY

《共催》

JIM-NET
شبكة الطب الباطني العربي

《協力》

UNHCR
The UN Refugee Agency